

研究室紹介

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 生産環境研究領域 病害虫グループ

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター（東北農研）は、岩手県盛岡市に本所、秋田県大仙市と福島市に研究拠点を置き、水田を利用した大規模水田作および輪作、新品種開発、畜産および飼料生産、原発事故被災地における営農再開に関する研究等、東北地域を中心とした寒冷地の農業発展に寄与するための多様な研究を行っています。本所は県最高峰の岩手山を正面に望む盛岡市北部に位置し、圃場を含めた面積は約 230 ha と広大で、所内の自然豊かな環境は古くから市民に親しまれ、5月に一般公開される菜の花畑は毎年約 4,000 名が訪れる春の人気イベントとなっています。東北農研では病害虫担当として、本所の生産環境研究領域・病害虫グループの7名の研究員（病害担当5名、虫害担当2名）が、以下に紹介する稲および露地・施設野菜の病害虫の防除技術の開発研究を実施しています。

水稻病害については、東北農研で開発した1kmメッシュ気象情報に基づくいもち病予察システムとICTを活用し、県や大学と連携して大規模水田作における効率的ないもち病防除技術の実証研究を実施しています。野菜病害に対しては、東北農研で取り組んでいる、越冬のリスクを回避しつつ端境期生産が可能となる「タマネギの春まき作型」における病害虫防除体系の確立を目的とした研究を実施しています。特に本作型で発生しやすい細菌性のりん茎腐敗については、発病とアザミウマ発生が関連している可能性があることから、グループの病害と虫害の研究員が協力して病害発生生態の解明を含めた研究を行っています。また、東北農研では、転炉スラグ



病害虫グループメンバー

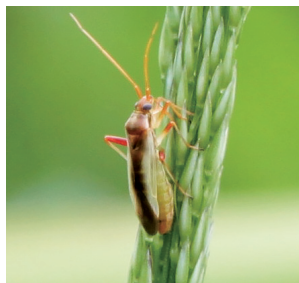
を用いて長期間安定的に土壌 pH を矯正することにより土壌病害の被害を低減させる技術を開発し、これまでウリ類ホモプシス根腐病、トマト青枯病、土壌伝染性フザリウム病に対する効果を確認してきました。現在は本技術の普及への対応を行いつつ、他の病害への適用や、他の防除法と組合せたより低コストな防除体系の開発に取り組んでいます。

水稻虫害では斑点米カメムシを対象として、土地利用と害虫発生量の関係について統計モデルを用いてハザードマップを作成し、被害発生リスクを可視化することで効率的防除を目指す研究を実施しています。また、化学合成農薬に頼らない害虫管理技術として、トマトにおける土着天敵（タバコカスミカメ）の実用化技術開発を目指し、天敵の温存植物を活用した放飼法の検討を行っているほか、コナガのジアミド系殺虫剤抵抗性発達を遅延させるガイドラインについて、道県での実証を進めつつ、抵抗性診断の迅速化とガイドラインの改良に取り組んでいます。

（病害虫グループ長 善林 薫）



貯蔵中に生じたタマネギの細菌性腐敗



アカスジカスミカメ

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4
TEL 019-643-3524, 3466